

まちづくり交付金 事後評価シート
浦和東部地区

平成20年12月

埼玉県さいたま市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県	市町村名	さいたま市	地区名	浦和東部地区			面積	324ha				
交付期間	平成16年度～平成20年度	事後評価実施時期	平成20年度	交付対象事業費	400百万円	国費率	40.0%						
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	なし										
		提案事業	なし										
	当初計画から削除した事業	事業名			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		基幹事業	高質空間形成施設(浦和美園駅前広場の高質化ほか)、高次都市施設(浦和美園駅東西自由通路)			浦和東部第一、浦和東部第二特定土地区画整理事業により、整備を行うため、中止。			地域の住みよさの満足度に関連するが、他の要因も影響するため、数値目標は据え置く。				
		提案事業	事業活用調査(高次都市施設整備事業検討調査)			民間、埼玉県によるスポーツ施設の充実が推進されているため、中止。			影響なし				
			事業活用調査(地域戦略プラン、スタジアム参道活用方策検討調査、スポーツクラブNPO支援方策検討、地域の水と緑を守り育てるNPO支援方策検討)			民間、埼玉県によるスポーツ施設の充実が推進されているため、中止。地域の水と緑を守り育てるNPO支援方策検討は、「まちなみ検討調査」の中で、包括的に検討することとなった。			影響なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(浦和美園駅東口駅前市民広場)、高次都市施設(浦和美園駅東口階段)			平成18年に計画変更して追加			地域の住みよさの満足度に関連するが、数値目標は据え置く。				
提案事業		事業活用調査(まちなみ検討調査、埋蔵文化財調査(岩槻南部))			平成18年に計画変更して追加			影響なし					
交付期間の変更	当初	平成16年度～平成20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更												
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
							モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合見)	予定時期	
	指標1	埼玉スタジアム2002フットサルコートの稼働率	%	36.9	H16	50.0	H20	48.1	52.6		あり なし	駅の利便性が向上したことや住宅・都市機能が集積したことにより、当該施設の利用が促進された。	-
	指標2	地域活動上の不満度(活動場所の確保が困難)	%	61.8	H16	30.0	H20		20.7		あり なし	民間による商業施設やスポーツ施設の立地が進んだため、活動場所の確保に関する不満度が低下した。	-
	指標3	定住人口	人	1,400	H16	2,800	H20	2,929	4,140		あり なし	土地区画整理事業により居住環境が整い、居住人口の増加につながった。	平成21年4月
	指標4	浦和美園駅乗降客数	人/日	5,000	H16	10,000	H20	10,600	10,825		あり なし	土地区画整理事業により商業施設やスポーツ施設が整備されたこと、住宅が供給されたことにより、浦和美園駅の利用者数の増加につながった。	平成21年4月
指標5	地域の住みよさの満足度	%	68	H16	85	H20		71.9		あり なし	魅力ある居住環境が整い、定住意向は向上しているものの、土地区画整理事業中であるため、評価を目標値まで高めることはできなかった。	平成21年12月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
							モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合見)	予定時期	
	その他の数値指標1	ボランティア団体、市民活動団体、NPO団体による地域活動への参加比率	%	5.8	H15			7.8	8.3			市民ワークショップによるまちなみ検討調査の実施が、地域活動への参加意識の高揚に寄与したと考えられる。	平成21年12月
	その他の数値指標2	定住意向	%	77.7	H15			77.8	77.8			土地区画整理事業により、魅力ある居住環境が整い、今後定住意向が高まることが見込まれる。	平成21年12月
その他の数値指標3													
4) 定性的な効果発現状況	関連事業である土地区画整理事業によるアクセス道路の整備も含め、駅東口階段の整備による駅前施設等へアクセシビリティが向上した。												
5) 実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	まちなみ検討調査における市民懇談会の開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				今後も市民の意見を聞いて、地区のまちづくりに活かしていく。					
	持続的なまちづくり体制の構築	サッカーを中心としたスポーツクラブの創設 地区内の緑地の維持管理を住民等が参加して行う		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				民間によるスポーツクラブが創設されたことから、市はスポーツ振興に関する後方支援を行う。 地区内の環境やコミュニティの向上に資する地元のまちづくり活動を後方支援する体制を整える。					

様式2-2 地区の概要

浦和東部地区(埼玉県さいたま市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標:国際アメンティタウン構想の実現による、生活を楽しむ市民が活躍する、高品位なさいたま市の副都心の形成 目標1:新しい都市機能の導入による拠点形成 目標2:良好な居住環境の形成による人口定着 目標3:水・緑・地域資源を活かした魅力の向上	埼玉スタジアム2002フットサルコートの稼働率 単位: %	36.9 H16年度	50.0 H20年度	52.6 H20年度
	地域活動上の不満度(活動場所の確保が困難) 単位: %	61.8 H16年度	30.0 H20年度	20.7 H20年度
	定住人口 単位: 人	1,400 H16年度	2,800 H20年度	4,140 H20年度
	浦和美園駅乗降客数 単位: 人/日	5,000 H16年度	10,000 H20年度	10,825 H20年度
	地域の住みよさの満足度 単位: %	68.0 H16年度	85.0 H20年度	71.9 H20年度

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 駅周辺において、健康・福祉を目的とする生活支援施設の整備または誘致については進んでおらず、民間企業・団体との連携等を含め、県、都市再生機構との協議・調整が必要である。 浦和東部第一特定土地区画整理事業、浦和東部第二特定土地区画整理事業、岩槻南部新和特定土地区画整理事業の事業推進を図る。 浦和東部第二特定土地区画整理事業及び岩槻南部特定土地区画整理事業の進捗が遅れ、交付期間内での整備が行われなかった下野田公園緑地、中野田公園緑地について、自然要素を活かした高質空間形成の整備推進を図る。 土地区画整理事業の進捗に伴う人口増加が進むため、小中学校等の教育施設等の誘致が必要である。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業の進捗等による人口増加に伴い、今後は子育て支援、生涯学習、行政窓口など地域住民の日常生活を支援する機能・サービスを集積させるための施設整備等を進める。 下野田公園緑地、中野田公園緑地の高質空間化整備を進めるとともに、地区内の回遊性を高めるために、自然環境を活かした散策空間の整備、散策を促進するためのソフト事業の充実を図る。 土地区画整理事業の進捗等による人口増加に伴い、今後は小中学校、幼稚園、保育園、図書館など教育施設等の誘致や整備を進める。

まちづくり交付金 フォローアップ報告書
浦和東部地区

平成22年3月

埼玉県さいたま市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4- 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	埼玉スタジアム2002フットサルコート稼働率	%	36.9	50.0	52.6	確定 見込み			あり なし			改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	駅の利便性が向上したことや住宅・都市機能が集積したことにより、当該施設の利用が促進された。	
指標2	地域活動上の不満度(活動場所の確保が困難)	%	61.8	30.0	20.7	確定 見込み			あり なし			改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	民間による商業施設やスポーツ施設の立地が進んだため、活動場所の確保に関する不満度が低下した。	
指標3	定住人口	人	1,400	2,800	4,140	確定 見込み			あり なし	3,504	H21年4月	H19からH20の増加率ほど人口が増加しなかった	改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	土地区画整理事業により居住環境が整い、居住人口の増加につながった。
指標4	浦和美園駅の1日平均乗降人員	人/日	5,000	10,000	10,825	確定 見込み			あり なし	10,800	H21年4月		改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	土地区画整理事業により商業施設やスポーツ施設が整備されたこと、住宅が供給されたことにより、浦和美園駅の利用者数の増加につながった。
指標5	地域の住みよさの満足度	%	68.0	85.0	71.9	確定 見込み			あり なし	78.4	H21年12月	目標値に至っていないが、まちづくりの進捗に併せて満足度が向上している。	改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	魅力ある居住環境が整い、定住意向は向上しているもの、土地区画整理事業中であるため、評価を目標値まで高めることはできなかった。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

様式4- その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1	ボランティア団体、市民活動団体、NPO団体による地域活動への参加比率	人	5.8	/	8.3	確定 見込み	/	/	/	9.8	H21年12月	良好な街を維持したいと言う意識が高揚していると思われる。	改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	市民ワークショップによるまちのみ検討調査の実施が、地域活動への参加意識の高揚に寄与したと考えられる。
その他の数値指標2	定住意向	%	77.7	/	77.8	確定 見込み	/	/	/	86.6	H21年12月	良好な街を維持したいと言う意識が高揚していると思われる。	改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	土地区画整理事業により、魅力ある居住環境が整い、今後定住意向が高まるが見込まれる。
その他の数値指標3			/	/	/	確定 見込み	/	/	/				改善策はそのまま 改善策に補強が必要 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2- から転記 全ての指標について記入

フォローアップの必要のある指標について記入

全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4 - 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5 - に記載した 今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために 行う方策	生活支援機能の集積			
改善策 ・まちづくりの目標を達成するた めの改善策 ・残された課題・新たな課題への 対応策 ・その他 必要な改善策	自然要素を活かした散策空間の充実			
	教育施設等の誘致			

事後評価シート 添付様式5 - から転記

様式4 - フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

都市再生整備計画(精算報告)

うらわとうぶちく
浦和東部地区

さいたま
埼玉県 さいたま市

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	さいたま市	地区名	浦和東部地区	面積	324 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度				

目標

大目標：国際アメニティタウン構想の実現による、生活を楽しむ市民が活躍する、高品位なさいたま市の副都心の形成

- 目標1：新しい都市機能の導入による拠点形成
- 目標2：良好な居住環境の形成による人口定着
- 目標3：水・緑・地域資源を活かした魅力の向上

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・本地区は、さいたま市の東部、埼玉高速鉄道線「浦和美園」駅周辺に位置する地区であり、平成11年6月に市街化区域に編入されたところである。田、樹木畑をはじめとする農地や生産緑地、斜面林などの低未利用地が大半を占める農・住混在の土地利用となっている。平成13年3月に特定土地区画整理事業の認可、埼玉高速鉄道線「浦和美園」駅が開業し、国道122号、国道463号バイパス、東北自動車道との接続が良好で交通利便性の高い地区である。また、埼玉スタジアム2002の拠点施設整備により商業系・住居系の需要が高まっている。
- ・本地区では、埼玉高速鉄道線を挟んで、市施行の浦和東部第一特定土地区画整理事業、都市再生機構施行の浦和東部第二特定土地区画整理事業、及び岩槻南部新和西特定土地区画整理事業の計3つの土地区画整理事業が進められ、市の副都心づくりが進められている。
- ・平成13年度に、本地区のまちづくり推進についての有識者によるアドバイザー会議を開催し、地区の愛称を「彩の国 ウィングシティ」と定めるなど、地区の将来ビジョンについて検討している。
- ・平成16年2月、さいたま市総合振興計画において、当地区を含む浦和美園駅周辺は本市の副都心のひとつである「美園地区」として位置づけられた。
- ・平成17年4月、さいたま市スポーツ振興計画を策定し、「一市民スポーツ」を基本理念に、当地区においてスポーツ・文化の交流等に資する施設の立地に努め、スタジアムとその周辺の水と緑を活かしたスポーツゾーンの形成を図ることが位置づけられた。
- ・平成17年4月に、さいたま市は岩槻市を合併し、ウィングシティとしての一体的なまちづくりを進めやすくなった。
- ・平成17年度には地区内の計画住宅用地2.8haにおいて、東急不動産㈱による高層集合住宅(657戸)の建設が決定され、平成18年4月には地区内にイオン㈱による大規模ショッピングセンターが開業し、定着人口の増加及び公共施設の整備に対して高い効果が期待できる。

本地区は、埼玉スタジアム2002を核としたスポーツ文化の拠点を有するが、試合開催日以外の幅広い利用または日常的な利用などのスポーツ文化の創造に向けた利用は進められていない。このため、イベント日以外の日常的な利用を図り、市民の健康増進、幅広いスポーツ活動を通じた市民交流の促進によるスポーツ文化の創造を具現化するため、拠点施設の整備、運営の充実を検討する必要がある。また、本地区には商業系施設の立地は計画されているが、健康・福祉機能は不足しており、定住を促進するため、それらの機能の集積が必要である。特に浦和美園駅前においてはまちづくりの先導的場所として、生活支援機能を中心としたセンター施設整備の検討が必要である。

計画されている都市拠点を結ぶ道路や、日常的に利用される道路について高質な空間を形成し、歩行者の安全性と快適性を確保することが、来街者の増加、定住の促進を図るうえで重要である。また、同時に日常生活にうるおいを与えるアメニティを充実させ、市民交流を促進させるしかけとしての散策・憩いの空間を充実させることも必要である。さらに、駅周辺の歩行者ネットワークを充実させることにより、鉄道東西間の一体性を強化する駅周辺の整備が必要である。

本地区は綾瀬川、天久保用水、斜面緑地などの水・緑の自然要素が豊かに現存する地域であり、街の個性・魅力を向上させるためには、これらの自然要素をふんだんに活かして散策空間を充実させ、同時にそれらをネットワークして街全体の魅力向上を進める整備が必要である。

将来ビジョン(中長期)

埼玉スタジアム2002を核に、市民主役のスポーツ文化を育み、快適生活を創造するさいたま市の副都心
さいたま市総合振興計画基本計画

本市は、市街地が拡大を続ける従来の都市づくりから、自然環境の保全・再生や既存市街地の再構築を基本とするコンパクトな都市づくりへの転換のため、都心への機能集積、副都心の育成など、多核連携型の都市構造の実現を目指す。浦和東部地区を含む美園地区は4つの副都心の1つに位置付けられ、大宮駅周辺・さいたま新都心周辺地区、並びに浦和駅周辺地区の2つの都心と連携しながら、その機能を補完するとともに、本市の都市活動を多様化する役割を果たす。特に、美園地区は、商業・業務機能を有し、スポーツ・交流、自然をテーマに、美しく安全で快適な住宅市街地の形成を目指す。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
埼玉スタジアム2002フットサルコートの稼働率	%	フットサルコート稼働時間 / 利用可能時間	スポーツ拠点施設の充実によるスポーツ環境及び健康・福祉環境の向上の度合いを把握し、拠点形成の効果を測る指標とし、現状の約1.5倍の利用率を目標とする。	36.9	50.0
地域活動上の不満度(活動場所の確保が困難)	%	活動場所の確保が困難と感じる人の割合(緑区区民意識調査アンケート)	地域交流施設の整備による地域活動実施に向けた活動場所に対する不満改善を把握し、拠点形成の効果を測る指標とし、現在値の半減を目標とする。	61.8	30.0
定住人口	人	地区内の住民基本台帳人口	良好な居住環境の形成による人口定着の状況を把握する指標とし、現人口の2倍以上の定着を目標とする。	1,400	2,800
浦和美園駅乗降客数	人/日	浦和美園駅1日平均乗降客数	人口定着、水・緑・地域資源を活かした魅力向上による来街意欲促進の度合いを把握する指標とし、現乗降客数の2倍以上を目標とする。	5,000	10,000
地域の住みよさの満足度	%	地区内居住者で地区の住み良いと感じる人の割合(緑区区民意識調査アンケート)	水・緑・地域資源を活かした魅力向上による満足度の度合いを把握する指標とし、回答者のほとんどが住みよしいと感じることを目標とする。	68.0	85.0

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>新たな都市機能の導入による拠点形成に関連して</p> <ul style="list-style-type: none"> さいたま市においてはサッカーを中心としたスポーツ環境づくりが重要であり、特に本地区では埼玉スタジアム2002を核としてスポーツやウォーキングを気軽に楽しめる公園、緑地などによるスポーツ環境の形成を図る。これにより、地区住民の健康増進、スポーツを介した交流の促進が図られると同時に、さいたま市全体のスポーツ文化の底上げ・情報発信を可能とする。 この新しい街には、地区住民並びに周辺の住民にとって利便性の高い公共サービスを提供する拠点、市民活動を促進する拠点が求められており、特に利便性の高い駅前に立地することが望ましい。また、本地区への入居者像は住宅の第一次取得者層である若いファミリー層と考えられることから、子育て支援機能を軸に、市民交流機能と周辺地区で不足している図書館機能や市民窓口サービス機能の導入を検討する。 浦和美園駅東口においては、街を舞台としたイベント空間や来街者の滞留空間ともなる市民広場を整備し、上記の公共サービス・市民活動拠点と一体となって駅を中心とした拠点形成を進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> まちなみ検討調査(事業活用調査) 東口駅前市民広場(地域生活基盤施設) 下野田公園緑地、中野田公園緑地(関連事業)
<p>良好な居住環境の形成による人口定着に関連して</p> <ul style="list-style-type: none"> 主要都市施設へのアクセス路は、地区住民および来街者の安全かつ適切な誘導や、再来意欲を高める快適性の向上のため、関連事業の土地区画整理事業と連携して歩道舗装の高質化や照明等の設置により地区の魅力向上を図る。 水や緑など日常生活にうおいを与えるアメニティ資源を活かし、充実した散策空間として整備するとともに、それらを含めた日常的に利用される地区内道路を高質化し、安全性と快適性を確保し、誘導容積型地区計画により土地の有効利用を誘導する。 地区東西の一体性を強化するため、東西の最重要結節点である浦和美園駅において、駅東西口に階段を整備し、駅舎と一体となった東西自由通路機能を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅東口階段(高次都市施設)
<p>水・緑・地域資源を活かした魅力の向上に関連して</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然と都市が両立する個性あるまちづくりを具現化し、地区住民および来街者にとって快適な空間をつくるため、本地区に現存する水や緑のアメニティ資源を十分に活かして、ベンチや照明の設置、植栽や歩道舗装の高質化などにより充実した散策空間を整備する。 また、散策空間を街の回廊としてネットワーク化することにより、より高い機能を発揮するとともに、地区全体の魅力向上につながる。このため、回廊として自然誘導するための歩道舗装や案内板の設置による整備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 下野田公園緑地、中野田公園緑地(関連事業)

その他

事業終了後の継続的なまちづくり活動

地区内を流れる綾瀬川では、全国ワースト3位の水質を改善しようと、平成元年から多数の市民が参加したゴミ拾いなどのクリーン作戦を毎年行なうなど、大幅な水質改善が図られている。現在市内には、埼玉県昆虫懇談会、芝川・綾瀬川をきれいにする会が綾瀬川の浄化活動、沿川の美化活動、水質・生物調査・研究、PR活動等を行っている。これらの団体等が参加し、地区内の緑地等の維持管理を住民等が参加して行う予定である。

埼玉スタジアム2002公園内に、人工芝グラウンド、夜間照明施設及びクラブハウスの整備とともに、サッカーを中心としたスポーツクラブが創設され、地区のスポーツ環境の向上が期待されている。

高品位な街並み形成に向けた取組み

浦和東部第二特定土地区画整理事業区域では、平成13年度から有識者等によるアドバイザー会議及び河川・都市空間整備方策検討委員会の検討を踏まえ、公共空間デザインの基本的考え方を検討している。まちづくり交付金の効果的な活用を目指し、平成16年度から、浦和東部第一特定土地区画整理事業区域も含めた浦和東部地区全域の公共空間デザイン指針の策定に取り組んでいる。

事業進捗を踏まえた交付対象事業の見直し

平成17年4月にさいたま市は岩槻市を合併し、これまで両市が行っていたウイングシティのまちづくりを本市により一体的に行うことが可能となった。このため、より効果的にまちづくり交付金を投入するため、事業区域を拡大し、交付対象事業の見直しを行った。

当初計画の採択時より、浦和東部第二特定土地区画整理事業は進捗し、H18年春には当初まちづくり交付金で分担していた浦和美園駅東口の駅前広場、駅前通線の高質空間形成施設の整備も完了しまちびらきが行われた。駅西口の浦和東部第一特定土地区画整理事業も進められており、区画整理事業によって駅前整備を行い、駅周辺の拠点形成という目標達成が図られる見込みがついた。

